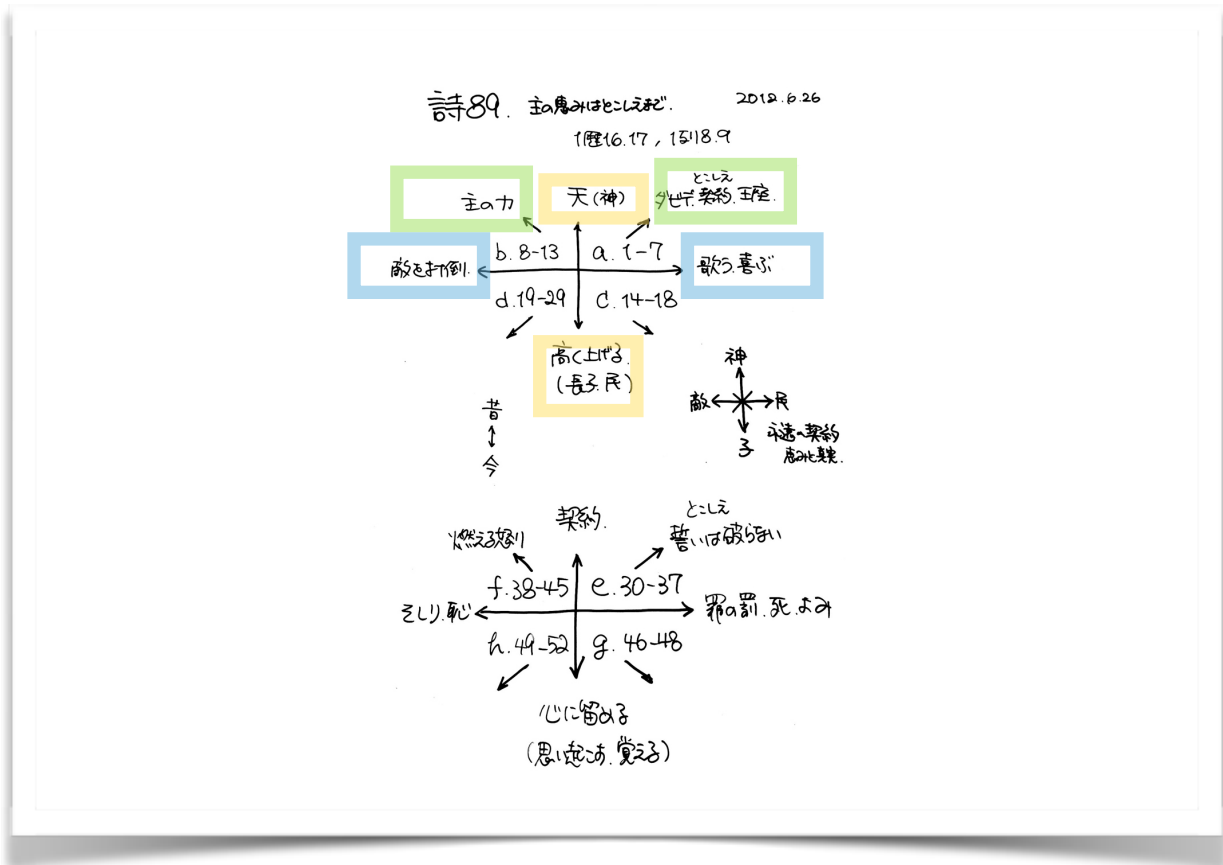




詩篇89篇



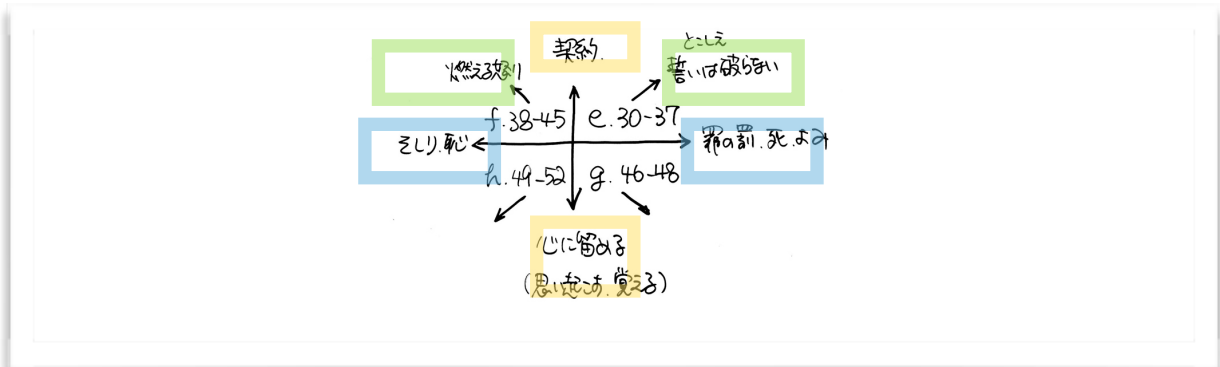
詩篇89篇「主の恵みはとこしえまで」というダビデの誓いの詩篇です。第3巻、73篇から89篇までです。第3巻の配列の分析をしていますけれど、第3巻73篇から88篇までに書かれている内容が89篇の中にはたくさん出てきます。89篇は73篇から88篇までの中のものをたくさん指しています。どちらかというとも89篇が先あって、それで構成されているということでしょうか。ヤコブとヨセフとアロンとモーセというものと、ダビデの恵みというのが、大きな2つの区分になります。

その第3巻の中で重要な89篇。89篇を前半、後半。29までと30から。そして、前半(29～)を4つにわける、後半(30～)を4つに分けるというやり方で分析できるものだと思います。

これは、この(上図)4つのものの前半abとcd、この共通点がこの(ab「天」・cd「高く上げる」)に書いてあります。acとbd。こちら(ac)の共通点はこちら(「歌う喜ぶ」)、こちら(bd)の共通点はこちら(「敵を打倒」)。そしてクロスしているものの、この(ad)の共通点はこちら(ダビデ、契約、王座)、この(bc)共通点はこちら(「主の力」)。

AABBの分析は前半が天の神、後半は長子、民が高くあげられること。天にいる神と高く上げられる民。ABABのつながりで見ると、aとc側は民が歌い喜ぶこと、こちら側(bd)は敵が倒されることというBとBのところ。ABBAというつながりで見ると、最初(a)と最後(d)のところは、ダビデの契約はとこしえに、その王座は堅く立てられる

という話です。そして、こちらのB(b)B(c)のところは、主の力、主の御力による、その裁きついて書かれているというのがこのクロスしているところです。

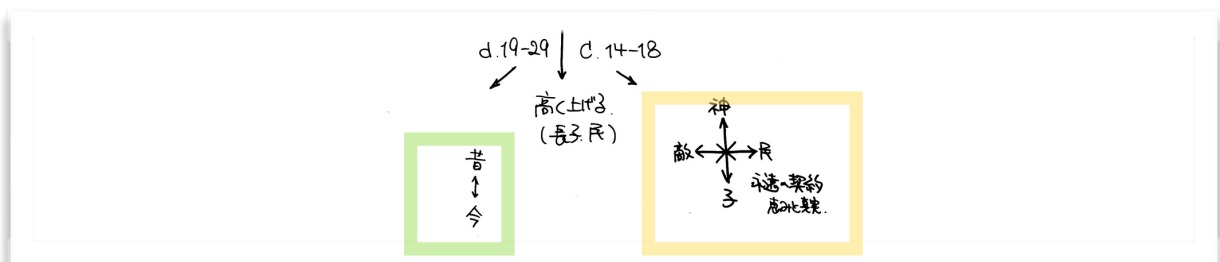


30からの後半(下図)、これもAABB、ABAB、ABBAという3つの平行で見ることができます。

AABBで見ると、前半AA(ef)のほうは、神様が契約を結んでくださった、後半BB(gh)のほうは、その契約を心に留めて覚えてくださいと訴える。

ABABのこちら側(eg)は、罪の罰が与えられる、罪の罰から、死、よみから救ってくださいという頼むほうと、(fh側)そしり、恥、こちらは、民が裁かれている、そのこちら側とそしる者たちに恥が着せられるようにというそしり、恥の話です。

そして、クロスしているABBAのAA(ef)のところは神様の誓いはとこしえに破りませんということ、これに対して(BBのところfgは)破っているかのように捨ててしまったのですかという燃える怒りで民が裁かれるというこのクロスのところです。



両方とも形が似ていて、神様と民・子について、神様とその神の子について。民について敵について。そして両方ともとこしえの契約、永遠の契約、恵みと真実というのでクロスしているという前半と後半が平行しているものですが、前半は、神様は昔こうしてくださったというみわざを覚える段落。それで、そのみわざの通りになっていないかのような現状を訴えて、その契約を覚えてくださいという今の祈りという、昔と今というふうに平行しているものだと89篇が分析できます。

詩89. 主の應みはとこほすべし。 2012.6.26
1歴16.17, 1518.9

第一歴代誌16章と17章。契約の箱が、ダビデがもう一度持ってきてその前で歌うようにした。そして、その歌の後に子孫が王座につくという約束を与えてくださった箇所。それと、その子孫が王座について神殿が作られた第一列王記8章と、それとその8章に書いてあるように、守らないならばこの宮は廢墟となるといわれる9章。この2つの箇所は89篇の理解の為に重要になる背景の箇所ですので、このことと89篇の分析というのでも研究してください。